

「災害復興実践学シンポジウム」激甚災害からの住宅復興－コアハウスの可能性－を開催しました(2014/1/13)

テーマ：住宅復興，コアハウス，地域支援
場所：建築会館（東京都港区）

1月13日(月・祝)に東京都港区の建築会館において、「災害復興実践学シンポジウム」激甚災害からの住宅復興－コアハウスの可能性－(主催：東北大学災害科学国際研究所・一般社団法人アーキエイド，共催：日本建築学会)を開催しました。本シンポジウムは，復興の初動期に小さく作って地域の生産力を使いながら徐々に大きくする住宅「コアハウス」の導入を取りかかりに，大災害からの住宅復興における課題を，デザイン・文化・生産の各分野から明らかにすることを目的として開催され，一般来場者およそ100名が参加しました。当研究所からは情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野の小野田泰明教授と本江正茂准教授が参加しました。開会に際し，本江准教授が災害科学国際研究所の設立の経緯・目的・構成について紹介し，被災現場における住宅復興に関する様々な問題とそこから得られる研究課題の解明という，本シンポジウムのミッションについて説明しました。吉野博 日本建築学会会長のあいさつ，小嶋一浩 横浜国立大学教授による趣旨説明に続き，イカプトラ 准教授(大阪大学出身，工学博士)による基調講演とパネルディスカッションが，小野田教授の進行で行われました。イカプトラ准教授は，1995年の阪神・淡路大震災，2006年ジャワ島中部地震，2010年ムラピ山噴火の被災地において復興支援に尽力され，ジャワ島中部地震の際には「コアハウス」という震災復興のための住宅供給の仕組みを提唱するなど，多くの活動を展開しています。講演などの内容は，以下の通りです。

- 基調講演 『コアハウスという考え方』
イカプトラ 准教授(インドネシア・ガジャマダ大学，建築家，コアハウス提唱者)
- パネルディスカッション 1 『自立再建住宅のデザイン』
塚本 由晴 准教授(東京工業大学)・三井所 清典 氏(公益社団法人日本建築士会連合会会長)
コーディネーター：千葉 学 教授(東京大学)
- パネルディスカッション 2 『浜のなりわいの復興』
貝島 桃代 准教授(筑波大学)・岡本 哲志 教授(法政大学)
コーディネーター：前田 茂樹 専任教員(大阪工業大学)
- パネルディスカッション 3 『木造技術と地域の生産力』
安藤 邦廣 氏(里山建築研究所主宰)・権藤 智之 准教授(首都大学東京)
コーディネーター：下吹越 武人 教授(法政大学)

『コアハウスという考え方』と題した基調講演においてイカプトラ准教授は，限られた最小限のスペースの中で用途・使い道・家族の生活を最大限に生かすこと，出来るだけ多くの被災者が利益を受けられるようにすることが，コアハウスの基本的な考え方であると言及しました。また，物資が不足している発災直後に，少ない資材と費用で耐震性を備えた住居を容易に建設できることが，コアハウスの特徴のひとつであると述べました。シンポジウムの最後には質疑応答の他，地域における住宅の在り方などについて，活発な意見交換が行われました。災害科学国際研究所としては，今後も多くの専門家や団体，自治体と協働しながら，様々な問題を解明し，研究成果が活かされるよう尽力する所存です。



イカプトラ准教授



会場の様子

写真提供：中川 涼 氏(撮影者)

文責：小野田泰明，本江正茂(情報管理・社会連携部門)